YOUメッセージから、Iメッセージへ

ピンチをチャンスに　夢の話を形に

2018．11．09
No.40
校長　渡邉　幸二

そうじの時間、一緒に掃除をしながら校内を回っていると、中にとてもていねいでそうじの上手な班や上手な人に出会います。ちょっと話をきいてみると、やっぱりおうちでもそうじをしている人だったり、働くのが好きだったりと、生活経験の差が出ているように思います。

５年教室そうじのＫ．Ｙさんなどは、実にうまい。４年のＯ．Ｔさんや３年Ｓ．Ｒさんなどもてきぱき動いていました。Ｏ．Ｓさんも力持ちで、机を一生懸命運んでくれます。別の場所で働いている班員もいたので、そちらはよく見ていませんでしたが、きっとチームワークも良いのでしょう。また、５年生のＫ．Ｍさんは、いつも廊下のテーブルの下にたまっているゴミを掃き出してくれます。

何に注目するのか

そうじが上手な子どもに育てるには、くどくど注意するのではなく、その子のがんばりを見つけて私たちが嬉しがるのが一番早いと思います。当たり前なのですが、ほうきを使ってゴミを集めているとか、普通に雑巾掛けしているとか、一見何も褒めることがないように見えますが、その当たり前にそうじをしている姿を嬉しがればいいと思うのです。

もちろんふざけている子どもに注意してもいいですが、**注意するならガツンと厳しく**がポイントでしょう。**生ぬるい注意は**誰かさんの小言と同じように、全く効き目がないどころか**害になります**(先生の言うことを聞かなくとも本気で叱られないという理解が定着する)。

YOUメッセージから、Iメッセージへ

そうじだけでなく、生徒指導全般に言えることだと思うのですが、**子どもの不適切な行為に注目するのではなく、当たり前にできていること、望ましい言動をしている子どもに注目すること**です。立ち歩きをする子どもがいたら、その子どもに注目して叱る･注意するのではなく、当たり前のように座って勉強している子どもに注目する、すなわち先生が嬉しがることが大事だと思います。それも「**(あなたは)**えらいねえ」なんて**ＹＯＵメッセージ**で褒めるのではなく、「**(私は)**あなたのそういうところが嬉しいなあ」と、**Ｉメッセージ**で伝えるのが基本なのでしょう。

最近、昼休みにグラウンドで遊んでいる子どもたちが５分前行動で遊びを止め、そうじ場所に向かうようになりました。加藤ひとみ先生や私もガツンと何度か叱りましたが、そのあと、時計を見て戻ってくる子どもたちに「嬉しいなあ」と声がけをしたら、だんだんそういう行動ができるようになってきています。

体育館への集合**「浜田スタイル」**も、叱ることもあったでしょうが、先生方が一枚岩となって子どもたちのよさに注目するようになったからできるようになったのでしょう。

廊下歩行だって、**昇降口の扉を閉めること**だって、当たり前のように歩いている子ども、何気なく扉を閉めてくれる子どもたちに注目することで(先生方が一丸となって)、おそらく近々達成できると思うのです。

ピンチをチャンスに

今日の**「生徒指導情報」**にあったように、本校児童が、新井田町（八軒町）歩道の花壇を踏みつけて、地域の方から叱られました。しかも今回だけでないと言うではありませんか。さらに注意された子どもたちは知らんふりして帰ったらしいではありませんか。情けない出来事です。

みなさんならどのようにして子どもたちを指導しますか。

どうやって子どもたちを成長へと導きますか。

教頭先生と、この件について話していたときに、教頭先生からすばらしいアイデアが出されました。どういうことだと思います？

今回の事案はある意味ピンチです。“**ピンチはチャンス**”と言うように、これを子どもたちの成長につながるよう指導したいものです。教頭先生の案は、

子どもたちが花壇を作り、管理する

です。

実にすばらしい案だと思いませんか。

子どもたちが自分で苦労して植えた花壇を踏みつけるわけがありません。**子どもたち自らが作る、悩む、苦労することで自分事として考えるようになる**でしょう。

さらに、そうすることで、本校の教育理念でもある**「公益･貢献」**につながる活動になり得るからです。もし、自分たちが行ったことが地域やさまざまな方から認められ褒められたら、子どもたちは大いに喜び、それがきっと自信につながることでしょう。安全面などクリアしなければならない課題もありますが、ぜひ実現したいアイデアです。

夢の話ではなく、形にする

話は変わりますが、職員会議等でもこういう素敵なアイデアがたくさん出され盛り上がります。しかし、それは「実践」まで結び付けなければ絵に描いた餅となり、せっかくの有意義な会議も虚しい時間、徒労に終わってしまいます。せっかくみなさんの脳が活性化し化学反応が起き、そして生み出されたアイデアですので、各指導部でもう一度話し合い、それを実現にこぎつけてください。**「課題の共有」→「アイデアの想起」→「具体的実践」**まで行くことで、それが**私たちの満足感、達成感につながる**と思います。それは部長だからすることではありません。みなさん一人ひとりが考え**一歩を踏み出す**ことです。誰かの所為にしたり言い訳しても、そこに先生としての成長はありません。